

FAC 6051 普天間飛行場 (Futenma Air Station)

平成 25 年度

1. 施設の概況

- (1) 所在地：宜野湾市（字宜野湾、字野嵩、字喜友名、字新城、字伊佐、字大山、字真志喜、字大謝名、字佐真下、字神山、字赤道、字中原、字上原）
- (2) 面積：4,806 千²m²（単位別表示：480.6ha、4,808k²m²、1,188 エーカー、145 万坪）
（単位：千²m²）（H24.3 月末 現在）

市町村名	国有地	県有地	市町村有地	民有地	計
宜野湾市	359	—	72	4,375	4,806

注) 1. 計数は、四捨五入によっているので符号しないことがある。

2. 「0」は四捨五入の結果、単位未満を示す。

- (3) 地主数：3,396 人（H24.3 月末 現在）
- (4) 年間賃借料：約 68 億 6,900 万円（H23 年度 実績）
- (5) 主要建物及び工作物
建物：基地司令部、第 36 海兵航空群司令部、格納庫、管制塔、整備修理施設、兵舎、映画館
診療所、体育館、クラブ、協会、郵便局、売店など
工作物：滑走路（2,800m×46m）、燃料タンク、アンテナ、プール
- (6) 基地従業員数：195 人（H24.3 月末 現在）
- (7) 軍人・軍属：約 3,200 人

2. 米軍部隊名

- (1) 管理部隊名：在沖米軍海兵隊基地司令部
- (2) 使用部隊名：普天間飛行場司令部、第 1 海兵航空団第 36 海兵航空群、第 18 海兵航空管制群
第 17 海兵航空支援群

3. 沿革

- 昭和 20 年 米軍占領と同時に接收され、米陸軍工兵隊が本土決戦に備えて滑走路を建設。当時、この地域は集落が点在しサトウキビやサツマイモ等の栽培が行われていたのどかな農業地帯であった。強制収容後、何回か基地の形態を変えつつ、本土復帰に伴い国の提供施設として海兵隊普天間基地として使用されている。
- 平成 8 年 12 月 2 日 沖縄に関する特別行動委員会（SACO）の最終報告で、沖縄本島東海岸沖への海上施設の建設を追求することなどを条件に、普天間飛行場の 5 年ないし 7 年以内の全面返還が合意される
- 平成 18 年 5 月 1 日 在日米軍再編協議最終報告で 2014 年までにキャンプシュワブ沿岸部に代替施設を建設し、移設後に返還することで日米合意。
- 平成 22 年 5 月 28 日 平成 18 年 5 月 1 日「再編の実施のための日米ロードマップ」に記された再編案を着実に実施する決意を確認した。
- 平成 23 年 6 月 21 日 日米安全保障協議委員会（「2+2」）において、代替施設の計画は、2014 年より後の出来るだけ早い時期に完了させることを確認（2014 年までの移設を断念）